

神川町公共施設長期保全計画（案）概要

計画の背景・目的（計画書 P.1）

神川町では、平成 28 年 3 月に将来にわたって持続可能な行政サービスを維持するため各施設の目標を定めた「神川町公共施設等総合管理計画」を、平成 31 年 3 月に公共施設の保有量の適正化の方向性を定める「神川町公共施設再配置計画」を策定しました。

本計画は、それらの計画を受け、今後神川町が保有していく公共施設について、**施設の機能や性能、安全性を確保するため、修繕・更新費用の平準化を図ることを目的する**ものです。

計画期間（計画書 P.2）

2021 年度から 2060 年度までの 40 年間

対象施設（計画書 P.2～4）

「神川町公共施設再配置計画」において残すべきとされた施設のうち、延べ床面積 200 m²以上又は主要施設に分類される施設

長期保全の基本方針（計画書 P.11）

「神川町公共施設等総合管理計画」の方針を踏まえ、以下のとおり定めます。

- ① 建物の適切な状況把握
- ② 建物の快適性、機能の向上
- ③ 財政負担の低減・平準化

長期保全の考え方（計画書 P.12～P.16）

① 建物の目標使用年数の設定

建築物の構造	耐用年数	目標使用年数
SRC造、RC造	60	85
S造	45	65
木造	30	50

より長く使用

② 事後保全から予防保全への管理方法の変更

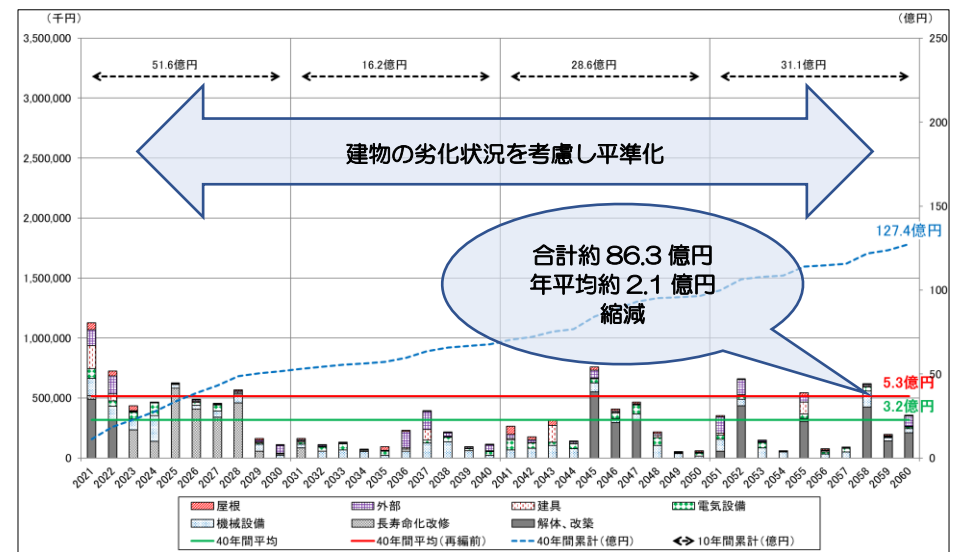
- ・ 事後保全…問題が発生した時点で対応する従来の管理方法
- ・ 予防保全…施設性能を長く維持するため定期的に修繕・更新を行う管理方法

ライフサイクルコストの算定（計画書 P.17～P.21）

耐用年数まで使用した場合の今後 40 年間にかかる費用は約 213.7 億円（年平均約 5.3 億円）となりますが、**目標使用年数**まで使用（+劣化考慮）した場合の今後 40 年間にかかる費用は約 127.4 億円（年平均約 3.2 億円）となり、**合計で約 86.3 億円（年平均約 2.1 億円）の縮減**となります。

※ライフサイクルコスト…建物の企画段階から施工・運営、解体されるまでにかかる費用

◆ 目標使用年数まで使用（+劣化考慮）した場合の計画期間中の改修・更新等費用



施設類型別長期保全計画（計画書 P.22～）

施設の劣化状況及び、上記で算出した目標使用年数まで使用した場合の改修・更新費用の見通しを施設類型別にまとめています。

※学校施設及び町営住宅については、本計画を文科省及び国交省のガイドラインにあわせて再編集し「学校施設長寿命化計画」「町営住宅長寿命化計画」を作成しています。

今後の公共施設管理

社会情勢の変化などにあわせ、定期的な計画の見直し、ロードマップの変更等を行いながら公共施設の適切な管理に努めてまいります。